

ACANTHUS



特集

【特別講演】

メジャーリーグの最前線で学んだこと

Index

学長挨拶..... 2	研究紹介..... 18
【特集】メジャーリーグの最前線で学んだこと ... 3	アカサス会だより..... 19
高松駅キャンパス 開学 1 周年 6	2026 年度 教育懇談会 (保護者会支部会) を開催 ... 22
学園創立 130 周年記念事業..... 7	2025 年度 退職者一覧..... 22
MONTHLY NEWS 2025 - 2026 8	村崎学園紹介..... 23
【連載】学科教員紹介 (徳島C・高松駅C) 14	





「あなたの未来を創る 徳島文理大学」



学長 梶山博司

Profile

1980(昭和55)年3月 広島大学理学部卒業、1982(昭和57)年3月 同大学院博士前期課程修了、1982(昭和57)年4月 株式会社日立製作所入社、基礎研究所にて金属・半導体の研究に従事。平成元年 ノースウェスタン大学マコーミック工学院博士研究員、2003(平成15)年4月 東京大学生産技術研究所寄附研究部助教授、2005(平成17)年11月 広島大学大学院先端物質科学研究科先端ディスプレイ科学講座教授。2012(平成24)年4月 徳島文理大学理工学部教授、2020(令和2)年4月 理工学部長・工学研究科長・未来科学研究所長、2021(令和3)年4月 徳島文理大学副学長兼任、2025(令和7)年4月 徳島文理大学学長(～現在)。理学博士(1988(昭和63)年11月、広島大学)、プラズマ理工学討論会会長。専門は、表面物理・量子光学・光合成と代謝の光制御工学。所属学会は、米国物理学会・米国材料学会・日本物理学会・日本金属学会・日本化学会・応用物理学会・電気化学会・生物工学会・日本光合成学会。

2025年7月に学園創立130周年を迎えた本学は、長い歴史と伝統に安住することなく、常に時代に即した教育研究のための変革を重ねてきました。「あなたの未来を創る 徳島文理大学」をスローガンに掲げて、学生の成長、地域の発展に貢献する大学をめざします。

本学は、徳島キャンパスと香川キャンパスに9学部28学科を有する西日本有数の総合私立大学へと発展してきました。香川キャンパスは、あらたな飛躍を求めてJR高松駅横にキャンパスの移転を敢行し、2025年3月に高松駅キャンパスとして開学しました。徳島県と香川県の玄関口に位置する大学として、さらなるブランド力の向上をめざします。

本学は、地域のニーズに応える「特色ある教育・研究」を推進しています。9学部が連携して、地域の健康や福祉・教育・食料・食糧・災害・公共政策など、SDGs(持続可能な17項目の開発目標)に寄与する教育・研究を展開しています。

これまでに、あおさのり陸上養殖施設と大豆植物工場の実用化(薬学部)、災害時、車いす利用者の介助者のための屋外避難を想定した訓練教材の開発(理学療法学科)、もち麦生パスタなどのもち麦加工食品(食物栄養学科)や「シカ肉シチュー」などのジビエ料理の開発(短期

大学部生活科学科食物専攻)、介護・福祉ロボットや災害レスキューAIロボット開発(ロボット創造工学科)、ワカメや青のりの陸上育苗技術開発(ナノ物質工学科)、さらには、心身衰弱予防をめざす「上板町STOPフレイル! with 徳島文理大学」の地域活動など、現場に立ちながら課題を解決する方針で、SDGsの理念に沿った実績をあげています。

学生教育の面では、堅実な知識・技術、国家資格を取得できるカリキュラムに加え、AI・データサイエンスなどの新しい教育プログラムを全学部で導入しています。

本学の教職員は、学生一人ひとりの学修状況等をリアルタイムで把握して、必要な支援や助言を直ちに行うことを心がけています。学生さんのがんばりもあり、卒業生の就職率や国家試験合格率は、ほとんどの学科で全国平均を上回っています。本学でがんばり続けた皆さんを心から労うとともに、将来の大きな飛躍を願っています。

私たちの社会には、環境・人々の健康・経済など、社会全体で取り組むべき多くの課題があります。本学は、世界の持続的成長に貢献するために、教育・研究を一層強化して、SDGsを推進する人材を育成してまいります。

特別講演

メジャーリーグの最前線で学んだこと

～これまでとこれから～

ロサンゼルス・ドジャース
アシスタント・フィジカルセラピスト
伊藤 憲生 さん(徳島文理大学卒業生)



本学保健福祉学部理学療法学科の卒業生で、現在は米大リーグの名門球団ロサンゼルス・ドジャースでアシスタント・フィジカルセラピストとして活躍する伊藤憲生さんが、2025年12月22日(月) 母校・徳島キャンパスで特別講演を行いました。テーマは「メジャーリーグの最前線で学んだこと～これまでとこれから～」。世界最高峰の舞台での経験と、夢を実現するまでの歩みが語られました。

伊藤さんは愛媛県出身。学生時代から「プロ野球のトレーナーになる」という夢を公言していました。2016年に本学を卒業後、愛知県の整形外科病院に就職。スポーツクリニックの立ち上げにも携わり、社会人野球や高校野球の現場も経験しました。その後、プロ野球 千葉ロッテマリーンズの公募に挑戦し合格。さらに大きな転機となったのが佐々木朗希投手のドジャースへの移籍でした。大学卒業から約10年、臨床現場での地道な努力と挑戦の積み重ねが、メジャーリーグという舞台につながりました。

講演前半では、メジャーリーグの現場の実情が紹介されました。年間162試合に加え、ポストシーズンまで続く長丁場。東海岸と西海岸を行き来する長距離移動や時差、深夜まで続く試合。華やかなワールドシリーズ優勝の裏側には、過酷な日常があります。選手たちは試合開始の5・6時間前には球場入りし、それぞれのルーティンに沿って準備を重ねます。充実した設備を誇るドジャースの本拠地とは対照的に、マイナーリーグでは厳しい環境の中で必死にチャンスを待つ選手たちの姿も目の当たりにしたそうです。

一流選手から学んだことも多く語られました。球団のレジェンドであるクレイトン・カーショー投手は、誰よりも早く球場入りし、長時間のトレーニングを継続。「試合で登板するのはeasy」「日々のトレーニングの方が強度は高い」「これを18年間継続している」と語る姿に、これまで

第一線で活躍し続ける理由を見たといいます。また、大谷翔平選手は、調子が良いときもノーヒットで調子が悪いときでも、チームが連敗しようが連勝しようが、常に一定の

Ⓜメジャーリーガーのここが凄い

- ・準備を怠らない
- ・試合開始時間の5・6時間前には、各自準備を始める
- ・試合に入るまで、それぞれの選手に完成したルーティンがある
- ・お互いを称え合う
- ・実力世界で競争意識が高い
- ・トレーニング量は明らかに日本より多く、年間をとって戦う体力がある
- ・試合以外の所で陰の努力、準備に覚悟をもっている

メジャーリーガーが世界一になるために、チームが勝つために皆で準備をして実行していることは、学生の皆さんにも役立つのではないのでしょうか。



① ドジャースのトレーニングルームなどの環境のこと、日本のプロ野球とのオン・オフの違い

ロッカールームやダイニングルームは一昨年ワールドシリーズで優勝して、160億円かけて改装したそうです。立派なダイニングルームで気持ちよく食事をとることができます。伊藤さんは廊下に飾ってあるトロフィーを毎日見て、選手のモチベーションを感じながら出勤しています。トレーニングルームは非常に大きなもので、選手は試合の数時間前からここで準備をしています。リハビリのトレーナーケア以外にも水素ガス吸入室・リカバリー専用部屋やウォーターベッド室、サウナルームなどを完備しています。ドジャースのロッカールームの横にはゲームをする部屋があります。車のレースやゴルフのゲームを非常にリラックスしながらやっている選手もいます。日本のプロ野球と違い、オン・オフがすごく上手だと感じます。



精神状態を維持し、徹底したルーティンを守り続けています。特別な才能だけでなく、「当たり前のことを当たり前」に続ける力こそが一流の条件であると実感したそうです。

理学療法士としての核心は「心・技・体」の関係性でした。伊藤さんは、まず身体機能が整ってこそ技術が安定し、結果としてメンタルが安定すると強調します。慢性的な肩の違和感を抱えていた佐々木朗希投手のサポートでは、投球フォームや肩甲骨、股関節の機能を基礎から再評価。身体の使い方を一つずつ見直し、地道なトレーニングを重ねることで復帰へと導きました。メンタル論に頼るのではなく、評価に基づく改善を徹底することが理学療法士の使命であると語りました。

ワールドシリーズの舞台裏も紹介されました。満身創痍の選手が痛み止めの注射を打ちながら出場する現実、延長戦までもつれる緊迫した試合。山本由伸投手の試合前ケアを任せられ、強いプレッシャーの中で役割を果たした経験は忘れられないものとなったそうです。優勝の歓喜の裏にあ

る壮絶な努力を目の当たりにし、「苦しい時間が9割、報われる瞬間が1割」と振り返りました。

後半では、自身のキャリアのターニングポイントについて語りました。学生時代、夢を公言する中で、最も厳しいといわれた鷺 春夫ゼミに自ら飛び込み、「とにかく行動しなさい」「失敗も成長のための経験だと思ってがんばりなさい」等のアドバイスのもと大きく成長した。愛知県吉田整形外科病院勤務時代に「まず3年間、臨床に没頭せよ」との指導を中宿伸哉リハビリテーション科長（当時）から受け、基礎を徹底的に磨いたこと。数多くの研修や学会発表に挑戦し、行動を積み重ねたことが現在につながっています。「最初の3年間を本気でがんばることが未来を決める」という言葉には、後輩たちへの強いエールが込められていました。

世界最高峰の舞台で活躍する卒業生の姿は、在学生だけでなく、夢をもつすべての人に大きな勇気を与えてくれました。準備を怠らず基礎を磨き、挑戦を続けること。伊藤さんの歩みは、その大切さを力強く示しています。

Profile

伊藤 憲生 (ITO KENSEI) 1994年3月生 愛媛県今治市出身

【保有資格】 2016 国家資格 理学療法士免許取得
2020 運動器・スポーツ認定理学療法士 取得
2020 NSCA-CSCS (全米 S&C スペシャリスト) 取得

【経歴】 2016 徳島文理大学 保健福祉学部理学療法学科 卒業
2016 医療法人慈和会 吉田整形外科病院 入職
2020 医療法人慈和会 吉田整形外科あいちスポーツクリニック 入職
2023 千葉ロッテマリーンズ 入社
2024 千葉ロッテマリーンズリハビリ部門 責任者
2024 千葉ロッテマリーンズ 退団
2025 ロサンゼルス・ドジャース 入団 現在
現役職 メジャーリーグ アシスタント・フィジカルセラピスト

近況について「4人家族、双子のパパです。妻も徳島文理大学の卒業生で、家族ともども毎年徳島を訪れるのを楽しみにしています。家族でロサンゼルスに移り住み、双子の成長をこれからも毎日楽しみながら、生活していきたいと思っています。家では“三つ子”と言われたいように家事もがんばります」

② 2人の恩師 ～鷺先生と中宿先生～

伊藤さんがプロ野球のトレーナーになりたいという夢を抱いていた学生時代、大きなターニングポイントとなったのが鷺 春夫先生との出会いです。鷺ゼミは確かに厳しかったですが、適切なアドバイスを常にいただき実践することで、大きく成長したといえます。現在も、鷺先生と連絡を取りながらアドバイスをいただいているそうです。この講演会が実現したのは、理学療法学科長・教授である鷺先生のご尽力によるものです。今回は講演会の座長を務められました。

愛知県の病院に就職した時、昨年度から本学で教授になられた中宿伸哉先生との出会いがありました。当時、中宿先生はリハビリテーション科の科長をされており、臨床に没頭するとともに学会発表や論文などのご指導もされ、理学療法士としての土台を築く基となるご指導をされました。



伊藤憲生さんへの質問と回答

Q. 徳島文理大学の理学療法学科を選んだ理由は？



A. 徳島文理大学の理学療法学科に3期生で入学できるということを知ったのがきっかけです。四国を出るイメージはそんなにはもってなかったもので、四国で唯一の理学療法学科がある大学で専門的にしっかりと学びたいので選ばせていただきました。

Q. プロとして働く上で一番大切にしていることは何かありますか？

A. 理学療法士として、選手の機能的な身体の不具合を改善できることが私の強みです。プロ野球やメジャーリーグの世界においても、その強みをいかし、選手が本来の力を発揮できる状態へ導くことを大切にしています。

Q. 日本とアメリカ、それぞれの球団で理学療法士に求められる役割の違いは何かありますか？

A. アメリカでは、医師と理学療法士の役割分担や責任の所在が明確に分かれており、理学療法士は医師の指示のもとで専門性を発揮しながら、リハビリ分野に責任をもって取り組みます。一方、日本でも医師の指示のもとで働く点は同じですが、より医師と密にコミュニケーションを取りながら方針を共に考える場面が多く、その分、臨床判断への主体性や責任を強く意識する環境でした。両国間で役割のあり方には違いがありますが、それぞれの制度や文化の中で専門性を発揮できる職業だと感じています。

Q. 苦しい時期を乗り越え、ポストシーズンで復活した佐々木朗希投手の姿はどう映りましたか？

A. 彼のすごさは何事も文句を言わずに積み重ねるところで、僕も尊敬しています。あれだけしんどい日々を一緒に経験した中でも、彼には探求心がすごくありました。調子が悪い時でも投球フォームを見てコミュニケーションを取ったり「もっと自分にできることはないですか」と話し合ったりしました。探求心を持ちながら試合の当日も次の日も試合前も、本当にいつも話し合いながら進めていくことができ、最後に良い結果が出たので、本当に彼はがんばったと思います。

Q. 選手が怪我をしている場合や怪我が予想される場合、選手が試合でいける（出場できる）という感覚と医学的な判断が違うときには、どのようにしていますか？

A. これは非常に難しいです。というのも、病院で働いているときの基準と、スポーツ現場で働いているときの「いける」という基準はちょっと違うからです。病院は、選手がいけるとなったときも、痛みをどう取るかということを最優先にします。選手と話をしながら理学療法評価に重きを置いて、リスクを中心に考えます。スポーツ現場、特に今回のワールドシリーズでは、一試合3本も肘に注射を打った選手もいます。目の前の選手が来年チームにいるかどうか分からない中で、選手がいかせてくれと言っている時には、どう試合に出させるか、この痛みでどうやらせるかというのを常に考えていました。痛いとなっても、がちがちにテーピングして巻いたらいけるとなったら、それで試合に出させます。スポーツ現場でどう試合に出させるかというのは、病院とはちょっと違う世界です。



高松駅 キャンパス 開学1周年

高松駅キャンパスが開学して、早1年が経ちました。都市型キャンパスでの新しい生活にも慣れ、学生・教職員一同、充実した毎日を送っています。広大な敷地にそれぞれの学部棟があった志度キャンパスとは違い、全学部が1つの建物に収容されたことで、他学部・他学科との交流もさらに盛んになりました。

志度キャンパスのころに比べ、服装が少しオシャレになった学生たちのライフスタイルには、選択肢が増えました。食堂やラウンジでは、ドリンクやドーナツを片手に勉強したり、友達と談笑したりする姿が日常の風景となりました。休日には、あなぶきアリーナ香川で行われるライブに出かけたり、宿泊施設やスタイリッシュなカフェでアルバイトに励んだり、それぞれが高松駅界隈ならではの時間を過ごしています。また、地域イベントや清掃活動などのボランティアにも積極的に参加しており、活動の場はキャンパス内にとどまらず、街全体が学びのキャンパスとなっています。

私たち教職員の生活も大きく変わりました。退勤後、サンポート高松のジムで汗を流したり、高松オルネでショッピングをしたり、医療機関を利用するなど、時間を有効に活用できる環境が整っています。通勤の往復だけではなく、ワークライフバランスの整った素敵な生活を送っています。

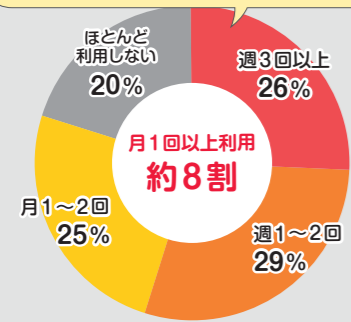
そして、周囲の商業施設からは、多くの若者が高松駅周辺を行きかうことで街の活性化につながっているという嬉しい声も聞こえてきます。

学生・教職員、そして地域が一体となりながら、新たな学びとにぎわいを生み出す拠点として、これからも本学は高松の街とともに成長し続けていきます。



大学駅前移転の影響に関する基礎調査 (アンケート中間集計)

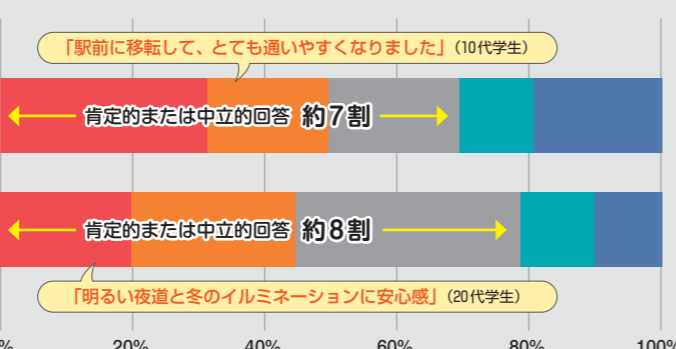
「駅の商業施設やアーケードが近くて、とても便利」(10代学生)
「周辺の施設が潤い、非常に便利になり満足しています」(20代学生)



移転後の通学・通勤のしやすさ

駅前キャンパスの安心感

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



(集計対象期間: 2025年1月19日~2月27日、対象: 高松駅キャンパス 学生・教職員、回答数: 423)

学園創立130周年記念事業 ~次の10年に向けて~



2025年度は学園にとって節目となる創立130周年の年であり、年間をとらして祝賀ムードに包まれた一年となりました。

● 学園創立130周年記念式典・祝賀会
2025年7月19日(土) JR ホテルクレメント徳島



7月19日(土)の創立記念日にはJR ホテルクレメント徳島にて約500人の学園の教職員が一堂に会し、学園創立130周年記念式典・祝賀会を行いました。祝賀会では村崎文彦理事長作の130年の歴史とあゆみを綴った祝賀ムービーを鑑賞し、これからもそれぞれの持ち場で協力してがんばっていく決意を新たにいたしました。

● 徳島文理小学校ホームカミング
2025年8月12日(火) 徳島文理小学校



学園創立130周年記念事業の一環として学園の各学校で10年に一度のホームカミングが行われました。8月12日(火)に徳島文理小学校にて開催されたホームカミングではお盆中ということもあり、帰省中の多くの卒業生が久しぶりの母校を訪れ校内を懐かしみました。給食の人気メニュー(カレー&青りんごゼリー)をランチルームでいただき、最後に体育館で文理小学校伝統の「マイムマイム」を輪になって踊りました。

● 徳島キャンパスホームカミング
2025年10月13日(月)・祝 JR ホテルクレメント徳島
● 香川キャンパスホームカミング
2025年10月18日(土) JR ホテルクレメント高松



10月13日(月)・祝は徳島キャンパスホームカミング(JR ホテルクレメント徳島)、10月18日(土)には香川キャンパスホームカミング(JR ホテルクレメント高松)が開催され、出席した卒業生の方々は学生時代にタイムスリップして同級生や恩師との楽しい再会のひと時を過ごしました。

● 学園創立130周年記念感謝の会
2025年11月7日(金) 高松駅キャンパス
JR ホテルクレメント高松



11月7日(金)に学園を日ごろから支えてくださっている教育界・政界・産業界・海外提携校、そして学園にゆかりの深い方々など約800人に感謝の意を表すため「学園創立130周年記念感謝の会」を高松駅キャンパスにて挙行いたしました。ニュルンベルクのマイスターズinger第一幕への前奏曲で幕を開けた式典での挨拶の中で村崎文彦理事長は、建学精神「自立協

同」について触れ「本学はいつの時代も社会の湯ぎに応じてきた。今後も地域の負託に応じて自立するとともに、皆さまと協同すれば明るい未来を迎えられると信じている」と述べました。出席者の皆さまに開学したばかりの高松駅キャンパスの中を見学していただき、JR高松駅の本真に建つキャンパスの利便性、また図書館やお茶室など学生ファーストのキャンパスであることを実感していただきました。祝賀会では徳島キャンパスの学生によるエイサーや阿波踊りが会場を盛り上げてくれました。

● 徳島文理中高ホームカミング
2026年1月2日(金) 第一部 徳島文理中高
第二部 徳島グランヴィリオホテル



一年間の大トリは、1月2日(金)に徳島文理中高ホームカミングが開催され、第一部は徳島文理中高にてHRや部活動の集まりなどがあり、第二部は徳島グランヴィリオホテルに会場を移して文理O×クイズ、恩師へのインタビューなど中高時代を振り返りながら、友人との談笑や近況報告を楽しむ「文理でよかった」ことをそれぞれが再確認した日になりました。

131年目である本年も、園児・児童・生徒・学生のために学園の教職員が一丸となって時代の変化に対応しながら着実に歩んでいきたいと思っております。



創立記念日である7月19日(土)、徳島新聞に広告を掲載しました。また、各ホームカミングの会場でパネルとしてご覧いただきました。

MONTHLY NEWS 8月

「香川わくわく子ども大学 2025」開催

7月・8月、高松駅キャンパスにおいて、香川県内の小学4年生から中学生を対象に「香川わくわく子ども大学 2025」を開催しました。高松駅キャンパス6学科の教員が講師を務め、学生がアシスタントとして参加しました。さらに産官学連携により、高松市環境局職員・ドローン操縦士・薬剤師・システムエンジニアなど多彩なゲスト講師を迎えました。

今年度新たに開講した「海の環境教室」では、JR高松駅前広場の海水池や高松市ヨット競技場をフィールドとした学習も取り入れました。

ロボットプログラミングや人体の仕組み、ゲーム制作・放射線・海洋環境・薬剤師体験などの講座をとおし、参加者からは「楽しく学べた」「将来の夢が広がった」「来年もぜひ開催してほしい」といった声が寄せられました。



MONTHLY NEWS 9月

上板町と連携したフレイル予防イベントを開催

9月15日(月)・祝、上板町農村環境改善センターで「STOPフレイル！with 徳島文理大学」が開催されました。このイベントは敬老の日に合わせて上板町町制施行70周年記念事業の一環で、上板町が本学等と連携して実施しました。

当日は学生33名、教職員16名が参加し、講演や各種ブース（口腔保健学科・理学療法学科・人間福祉学科・短大食物専攻）でフレイル予防を啓発し、理学療法学科 篤教授による講演や音楽療法コース 井村准教授による音楽プログラムをとおして、運動や歌・踊りで健康づくりを推進。学生にとっても学びを実践する貴重な機会となり、将来のキャリア形成を考える上でのモチベーションにもなりました。



千住 明客員教授による特別講座



9月29日(月)、現代音楽をはじめ、TVドラマ「VIVANT」など数多くの映像作品の音楽を手掛ける世界的作曲家、千住 明客員教授による特別講座を開催しました。

この特別講座は、音楽制作を専攻する学生に対し、プロの視点をおして創作プロセスを深く学んでもらうことを目的として開催されました。テーマは「言葉から音楽へ」。千住客員教授は、言葉や詩に含まれるリズムや抑揚をどのように聴衆の心を打つ音楽へと具体的に創り上げていくのか、その緻密な思考プロセスを解説されました。また音楽制作において、驚異的なスピードで進化を続けているAIとどのように共存すべきかについても言及されました。講義の後半は、実際に学生の作品を取り上げたレッスンを展開。基礎的な学びを積み重ねていくことこそが、クリエイティブな成果につながるということを学生たちに伝えていただきました。

本学では、今後も千住客員教授をはじめとするトップアーティストたちによる実践的な学びの場を積極的に提供し、創造性豊かな人材育成に力を注いでまいります。

MONTHLY NEWS 10月

大学祭

2025年度は、高松駅キャンパスへ移転後初の大学祭となりました。徳島キャンパスの山城祭とともに、お互いのキャンパスの大学祭に参加して、両キャンパスの学生が交流し、絆を深める機会となりました。

両会場では、ダンスや軽音ライブ、お笑いなどのステージイベントをはじめ、模擬店や展示・体験ブースが充実。徳島キャンパスでは、もち麦うどんや沖縄そばなどの特色ある模擬店が人気を集め、高松駅キャンパスでは、画家・山口一郎さんによるライブペインティングが来場者から好評でした。

両キャンパスの大学祭実行委員会のメンバーは、イベントの企画・運営を通じて、リーダーシップやチームワークなどのスキルを身につけることができ、非常に良い経験となりました。



人間生活学科の学生作品がすごい！ ～がんばって被服制作に取り組みました！！～



クリエイティブ・デザイン授業では、サスティナブル社会をめざすために「デコリメイクチャレンジ展」に毎年参加しています。「デコリメイクチャレンジ展 2025」は2年生がアイデア一杯のオリジナル作品を制作し、「関西ファッション連合理事長賞」を受賞しました。この賞は神戸・京都・大阪などの大学や短大、さらに専門学校の参加学生の中で3位に相当する賞となります。

また、「2025年度卒業研究論文・制作作品」において、4年生はさまざまな研究テーマに沿って作品を制作しました。阿波藍研究を行い自ら阿波藍染に挑戦し、多様な手法を用いて立体造形方法で制作した藍のドレス制作研究や各テーマのオリジナルフォーマル・ウェアの制作研究、さらに伝統工芸西陣織のリメイクファッションの制作研究など、多岐にわたります。作品は評価が高く、藍のドレスは藍の館・美馬市立図書館・板野町文化の館に展示されました。その他の作品も本学2号館1階ラウンジにて展示を行い、さらに全ての作品は、徳島県庁に展示され、学生たちにとって素晴らしい実績となりました。

MONTHLY NEWS 11月

「第42回おとぎのくに」

保育科の伝統行事「第42回おとぎのくに」を、11月26日(水)・27日(木)の2日間、むらさきホールで開催しました。保育科1・2年生が力を合わせ、ハンドベルやブラックシアター、ミュージカル・合唱・ダンスなど多彩な演目を披露。会場には約1,000人の子どもたちや保育者が訪れ、歓声と笑顔に包まれました。入学当初は人前に立つことが苦手だった学生が堂々と発表する姿からは大きな成長が感じられました。子どもたちの「おもしろかった！」という声は、学生たちに達成感と自信をもたらしたようです。さらに、衣装制作や子どもたちの誘導・受付では他学科の協力を得て、この行事が多くの人々の思いに支えられていることを改めて実感する機会となりました。



ランチタイムコンサート ～キャンパスに響く六重奏の調べ～



キャンパスの紅葉が色づく11月14日(金)、徳島キャンパス2号館1階アクティブラウンジでランチタイムコンサートを開催しました。今回は総勢6名によるクラリネットアンサンブルが登場。「秋の童謡メロデー」や「クラリネットをこわしちゃった」、ブラームス「ハンガリー舞曲第5番」などが披露されました。木管楽器ならではの温かく澄んだ音色と6人の息が合ったリズムがラウンジ一杯に響き渡り、訪れた学生や教職員にとって、芸術の秋にふさわしい心温まるひとときとなりました。2025年度は毎月第1金曜日を中心に全5回開催し、音楽で彩られたランチタイムはキャンパスの憩いの場として親しまれました。



高松駅キャンパスで初の遍路ウォークを実施

11月7日(金)、高松駅キャンパスへ移転して初めての遍路ウォークを実施しました。2024年度までは、キャンパスがあったさぬき市内の上がり三カ寺を巡る遍路ウォークということで、学生にとって身近に感じられた遍路ウォークでした。今回からは少し距離が離れた高松駅キャンパスで実施しました。

当日は天候にも恵まれ、大窪寺境内の紅葉もほどよく進んでいました。今回参加した約450人の1年生も、これまで参加した先輩たち同様に秋の大窪寺路を仲間たちと思いの感じを抱きながら歩き、十二分に楽しみながら充実した一日を過ごすことができたのではないのでしょうか。



田中諒大(心理学科1年生)さんが徳島県議会表彰を受賞

人間生活学部心理学科1年の田中諒大さんが、滋賀県で開催された「第24回全国障害者スポーツ大会」の障害種別T-51車椅子100mに出場し、自己最高タイムとなる29.51秒で見事、金メダルを獲得し、徳島県議会表彰を受賞しました。

田中さんは陸上部に所属し、大会に向けて理学療法学科教員および学生有志のサポートを受けながら、本学のトレーニングセンターを活用し、日々トレーニングに励んでいました。「今回の記録は、普段の練習でも出せなかったタイムでした。それを達成できたのは、理学療法学科の柳澤先生や学生の皆さんのサポートのおかげだと思っています。高校時代とは比べものにならないほどの練習量をこなすことができ、この半年で1秒以上タイムを縮めることができました。この度の受賞はとても励みになります。今後もトレーニングを重ね、将来はパラリンピックに出場したいと考えています」とコメントしました。



イルミネーション点灯式



本学の冬の風物詩となっているイルミネーション。高松駅キャンパスでは12月1日(月)に点灯式が開催されました。今回が高松駅キャンパスで初の開催となり緊張感のある中での開催となりましたが、当日は梶山学長および学生代表による挨拶の後、点灯が行われ、イルミネーションが一同に輝くと会場は大きな歓声と拍手に包まれました。12月5日(金)には徳島キャンパス5号館むらさきホール前にて点灯式を開催し、音楽学部長ジュゼッペ・マリオリ教授によるパイプオルガン演奏をはじめ、ダンス部や沖繩県人会による演舞など多彩な催しが行われ、冬の夜のキャンパスを35万球のイルミネーションが華やかに彩りました。

UNIVAS AWARDSで優秀賞を受賞

本学が企画した「徳島文理大学キッズスポーツフェスタ2025〜マルチスポーツ体験会〜」が「UNIVAS AWARDS 2025-26」の「大学スポーツプロモート優秀取組賞」部門において、優秀賞を受賞しました。四国地区の大学では初受賞となります。

12月20日(土)に本学の体育館で開催したこのイベントは、サッカー・野球・バスケットボールの複数種目を一日で体験できるというプログラムでした。広い体育館には、小学1年生から3年生までの児童79名が参加し、県内のトップアスリートの手ほどきを受け、各種スポーツを体験しました。

運営面においては体育会学生が主体となり、受付から競技指導まで積極的に取り組み、参加した子どもたちからは、「お兄さん、お姉さんと遊べて楽しかった」という喜びの声をいただきました。

今回のイベントを通じ、地域における本学の役割を再認識するとともに、学生にとって大変貴重な社会貢献の機会となりました。



「まちづくりタウンミーティング」開催



1月8日(木)、高松駅キャンパスで大西秀人高松市長との「まちづくりタウンミーティング」が開催され、5学部10学科の学生が参加しました。このタウンミーティングは、若者がまちづくりについて考える機会を創出し、第7次高松市総合計画に掲げる都市像の実現に向け、市政課題の共有と意見交換を目的としています。大西市長の講演後は学生との意見交換が行われ、シーフロントエリアの開発や公共交通の設備、若者が集える施設や機会の充実、人口増加に繋げる方策などについて質問や意見が出され、大西市長から丁寧に回答をいただきました。高松市へのキャンパス移転による「社会とつながる学び」の実現に力を入れている中、参加した学生にとって地域課題や将来ビジョンを考える良い機会となりました。



「瀬戸内海タートル・フルマラソン」に学生ボランティアとして参加

1月18日(日)、本学が協賛する「第44回瀬戸内海タートル・フルマラソン全国大会」が小豆島で開催され、高松駅キャンパスの学生14名がボランティアとして参加しました。本学の学生は第41回大会からボランティアとして参加していますが、10名を超えるのは初めてであり、3年連続で参加した学生もいるなど関心の高さが窺えます。

ボランティア業務は早朝から始まるため、前日から小豆島に渡り、土庄町営施設で宿泊して大会運営に臨みました。最低気温6℃の中、参加者受付や警備(誘導)・給水・弁当配布などを担当して約1,600人のランナーを支えました。学祖村崎サイ先生の出身地小豆島で開催されるこの大会を、今後も学生が支えてくれることを期待したいと思います。



2025年度生活科学科生活科学専攻卒業制作展について



生活科学専攻では、デザインアート・ファッションブライダル・パティシエの三分野を柱に、モノづくりをとおして感性と実践的な技術を身につけてきました。創造することが好きでセンスあふれる学生たちが、授業や実習を重ねながら培ってきた成果を卒業制作展にて発表しました。2年間の学びの集大成として、学生一人ひとりの個性や成長の軌跡をご覧いただける展示となりました。

デザインアート分野では、CG・陶芸・絵画など、発想力と表現力をいかした多彩な作品を展示し、ファッションブライダル分野では、学生自身がデザインから制作まで手がけたオリジナルドレスを発表、また、パティシエ分野では、繊細な技術と美意識が光る華やかな工芸菓子や菓子器を展示しました。

2025年度は、学生たちの想いと努力が詰まった作品の数々をより多くの方にご覧いただけるよう、学外会場(徳島市東新町 ヒラオカビル)にて開催しました。

旧志度キャンパスでの大豆の水耕栽培に関する実証研究



本学では、食料自給率の向上と持続可能な食料資源技術の開発を目的として、香川県さぬき市の旧志度キャンパスを拠点に、2025年度から薬学部 山本博文教授を中心に大豆の水耕栽培に関する実証研究を徳島県とマルコメ株式会社と協力して進めています。本研究施設では、生育条件に最適な養液組成を解析し、精密制御するための栽培システムを開発中です。現在は年4回の栽培プロトコルの作成とともに、生育特性や収量、大豆成分の評価を進めています。昨年10月末には、旧志度キャンパスで水耕栽培した大豆の初収穫が行われ、収穫物はマルコメ株式会社の協力のもと味噌の試作品として加工されました。基礎研究から食品加工までを一貫して検証できる体制は本学の研究力の強みです。昨年11月には、内閣府特命担当の黄川田仁志大臣をはじめ内閣官房地域未来戦略局に本事業を説明する機会をいただきました。今後は自然交配による独自のブランド品種の開発とともに、栽培システムの規模を拡大し、四国発の新たな大豆生産技術として社会実装をめざしていきます。



「食と農をつなぐアワード」活動認定&知事表彰を受賞



食物栄養学科 中川利津代教授を中心としたもちっとむぎゅっとの会が「食と農をつなぐアワード」において、2025年11月8日(土)付で活動認定を受け、ニッポンフードソフト事務局より活動認定証を授与されました。認定証には、生産者・食品事業者・消費者が連携する「食料システム」への理解促進に貢献するとともに、持続可能な食料供給に向けた主体的な取り組みが評価されたことが記されています。また、1月30日(金)には「令和7年度 とくしま共生社会づくり 知事表彰」を受賞しました。牟岐町特産の栄養価の高いもち麦やモリンガを活用し、産官学民連携による商品開発・レシピ作成・販路拡大に取り組み、農業の活性化と健康づくりに貢献してきた点が高く評価されました。もちっとむぎゅっとの会の歩みがかたちとなり、今回の受賞につながったことが、多くの方々の希望や励みとなれば幸いです。

MONTHLY NEWS 2月

学園創立130周年記念 第68回定期演奏会 華麗に 壮大に 建学精神を受け継ぐ響き

2月15日(日)、第68回定期演奏会がむらさきホールで開催されました。オープニングはシベリウス作曲の交響詩「フィンランディア」合唱付きで、華々しく荘厳な演奏で開幕しました。2曲目は、音楽学部管弦打楽器コース4年の田上陽菜さんのオーボエによる、モーツァルト作曲のオーボエ協奏曲 ハ長調 K.314 第1楽章、3曲目は同じく管弦打楽器コース4年の藤本深玖さんのマリンバによる、クレ斯顿作曲のマリンバ小協奏曲より第1楽章、第3楽章でした。どちらも練習の成果と指導のレベルの高さが窺える、超絶技巧が連続する素晴らしい演奏で観客を魅了しました。最後はドヴォルザーク作曲の交響曲第9番 ホ短調「新世界より」で「ブラボー」の声とともに会場の感動は最高潮に達しました。アンコールの余韻が残る会場ロビーには、音楽学部の新旧教職員や現役生、卒業生が再会の喜びと音楽の感動を分かち合う姿がありました。



田上陽菜さん オーボエ
徳島交響楽団ジュニアオーケストラに在団し、現在は卒業生として活動のサポートを行っている。第15回、17回徳島音楽コンクール 木管楽器部門大学・一般の部において銀賞を受賞。2025年にオーストリアで開催された、ウィーン国立音楽大学主催「ISA25-International Summer Academy」に本学の推薦で参加し、Christian Wetzel氏のマスタークラスを受講。現在、本学音楽学部管弦打楽器コース4年に在籍し、オーボエを川人大地氏に師事。



藤本深玖さん マリンバ
徳島県立名西高等学校の芸術科・音楽コースを卒業。在学時は打楽器を富士原あや氏に師事。第13回徳島音楽コンクール打楽器部門 高等学校の部、および第14、15、16回打楽器部門 大学・一般の部において金賞を受賞。第14回徳島音楽コンクール徳島音楽フェスティバル打楽器部門では最優秀賞を受賞。現在、本学音楽学部管弦打楽器コース4年に在籍し、中村拓美、香野勢津子の各氏に師事。

“きゅうり”ビール完成!

総合政策学部の床塚ゼミ4年生が、那賀川町商工会・日和佐ビール・美波御塩と連携し、阿南市那賀川町産の「きゅうり」を使用した、全国的にも珍しいクラフトビールを開発しました。爽やかに加え、メロンに似た風味がある「きゅうりビール」を、2月4日(水)、JA 東とくしまの産直市「みはらしの丘 あいさい広場」において販売したところ、当日用意した70本のビールが1時間で完売しました。

学生はこの日のために200本のきゅうりを懸命に下処理し、ビール工房で仕込みました。総数350本が1週間で完売しました。その売上金については、本学学生も参加している社会貢献活動「出島壁画再創造プロジェクト」の活動費として活用していただくようにしました。今後も地域と連携しながら、学生たちが主体的に課題解決に取り組み「実践知」を習得する機会を強化していきます。



広がる高大連携の輪 城南高校SSH成果発表会を開催!

2月24日(火)、徳島キャンパス2号館において「令和7年度徳島県立城南高等学校SSH成果発表会」が開催されました。2024年7月、連携協定の締結を受け、本学が支援してきた探究活動の集大成となる発表会です。当日は本学から教職員・学生約50人が参加し、本学との共同研究17組を含む99組のポスターや、選抜8組の口頭発表が披露されました。全99組のポスターは、3月4日(水)まで2号館で事後展示されました。



第30回四国産業技術大賞 最優秀技術功績賞を受賞

臨床工学科 榎野 真准教授の研究チームが、株式会社イトウ（三木 慎也社長：愛媛県）との共同研究で開発したECOな脱臭装置「BAMBOO AIR」が第30回四国産業技術大賞の最優秀技術功績賞を受賞しました。2月27日(金)かがわ国際会議場で表彰式が行われ、本学からは推薦者である梶山学長と榎野准教授が参加しました。

本学は主に、竹活性炭を用いた脱臭フィルターへ効率よく空気を送るために最適なファンの位置を決定すること、筐体（はこ）の大きさを検討するなど開発に携りました。榎野准教授は、「これまでイトウ様と協力し努力してきた結果、このような賞をいただくことができた。今後も医療機関などの課題解決に取り組んでいきたい」と話していました。



“地域食材”×“防災”×“ゲーム”＝“防災すごろくカレー”完成!

総合政策学部の床塚ゼミ3年生が、三好市の産官学団体と協働し「防災すごろくカレー」を開発しました。昨年6月から試行錯誤を重ねた本作は、地域の農産物を活用しつつ、日常から防災を意識する「フェーズフリー」の視点を導入。パッケージには、南海トラフ地震から命を守るための知識や行動を問う48問のクイズを掲載。「ゲームの面白さと教材の質のバランスに苦労した」と学生が語り、遊びながら実践的な防災知識が身につく画期的な製品です。今後は高校生や大学生を対象にゲーム体験会を通じて製品の改良を図っていきます。

教室を飛び出し、地域社会のリアルな課題と真剣に向き合うことを重視する本学の教育方針が、ここに結実しています。



MONTHLY NEWS 3月



徳島キャンパス



高松キャンパス

沖縄県出身の卒業生 交流深める



今回で3回目となる沖縄出身の卒業生による運動会が2月28日(土)に沖縄市比屋根小学校で開催されました。昨年度よりも参加者は少し減少したものの、卒業して間もない方たちの参加が目立ち、会場はにぎやかな雰囲気に包まれました。

「WBC～憧れるのをやめましょう～」のどこか聞き覚えのあるフレーズのスローガンが思い出されます。一方WBCはWatta Bunri Classicの略と考えることもできます。Wattaとは沖縄の方言で「私たち」という意味で「私たち文理!」になるそうです。

卒業生の皆さんは運動会をとおして交流を深めることで大学時代の思い出がよみがえったのではないのでしょうか。当時と変わらぬ友情や新たなつながりを感じるひと時となり、改めて母校の温かさを実感したことでしょう。



2025年度 卒業式

2025年度 卒業式が、徳島キャンパスは3月15日(日)、高松キャンパスは3月17日(火)に挙行されました。式典では梶山学長が大学院生に学位記、専攻科生に修了証明、各学部の総代には卒業証書および学位記を授与しました。その後、各キャンパスの総代は、これまでの学生生活を振り返りつつ、これからの未来に向かって思いを巡らせながら答辞を述べ、会場は厳かな雰囲気に包まれました。高松キャンパスでは最初の卒業式ということで最初に相応しい式典を執り行うことができました。卒業生の皆さんの門出を祝うことができたことを教職員一同、大変嬉しく思っています。

SACHIKO IMURA

井村 幸子 先生

音楽学部 音楽学科 音楽療法コース

担当授業：音楽療法概論、音楽療法論臨床、音楽療法実習、
音楽療法インターンシップ など

学 歴：桃山学院大学文学部（現国際教養学部）国際文化学科
徳島文理大学音楽学部音楽学科音楽療法コース、音楽専攻科声楽コース
シェナンドー大学音楽院 Graduate Certificate in Music Therapy
シェナンドー大学音楽院 Master of Music Therapy

趣 味：仲間と美味しい食事と会話をすること

ので徳島キャンパスと大阪会場を両日受験しました。結果は両方とも合格で、晴れて音楽療法コースの1期生になることができました。

私は演奏家をめざすような、いわゆる音楽の英才教育を受けた人ではありませんが、幼稚園からピアノ、中学ではブラスバンドでフルート、高校では合唱部と、気づけばずっと側に音楽があり、音楽療法士への道へとつながっていたように思います。

昨年末には令和7年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞されましたこと、おめでとうございます。これまでのどのような活動が評価されましたか？

1999年に音楽療法コースが創設されて以来、教員も学生も自分が学んだ知識と能力を最大限に使って、音楽療法実習などで出会う子どもや高齢者のために努力してきました。その心はとてまっすぐで、純粋なものです。

また、近年では徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターと協働し、応募で集まった障がいをもつ人と家族のために、その人の潜在能力が開花するような音楽療法の視点をいかした音楽活動を提供しています。さらに、あわぎんホールでの音楽発表の支援（写真1）や病院・施設で音楽活動を実践する人を支援するワークショップも行っていきます。今回の表彰は、これまでの音楽療法コースの

も芽は出ないなと思い始めたところでした。

そのとき、母親が家で穫れた野菜と一緒に「文理大に音楽療法コース新設」の新聞記事を送ってくれました。興味があったので書店で『音楽療法士のしごと』という本を買って読んだところ自分と合う気がして、一気に徳島文理大学を受験しました。しかも、落ちると思っていた

先生の専門分野と今の分野をめざそうと思った理由、きっかけを教えてください。

大阪の大学を卒業後は「音楽療法」なんて知らなくて、神戸に住んで大阪の通訳翻訳学校に通っていました。それが、通訳コースではなく、単純に英語を学ぶコースに在籍していました。周りには帰国子女もいたりして、自分はこの

績と「誰かのために」という心が評価されたのだと思っています。



写真1

教員になって良かったこと、大変だったことは何ですか？

音楽療法を受ける対象者の幅はとても広くて…。どこかひとつの職場に勤める音楽療法士ではないので、学生が卒業して出会うであろう対象者を想定して、例えば小さな子どもから成人、高齢者やホスピス患者まで、オールラウンドに教えられなければならない。なかなか大変ですね。

それでも理論の授業をして、事前指導でリハーサルをして、いよいよ学外実習に行き学生たちと緊張しながらも担当する子どもたちとの授業の成功に喜びを感じ…。学生と一緒に授業を創り出し、苦楽を共にできることは教員ならではの特権だと思っています。また、本学で勉強して成長し、音楽療法士として活躍する卒業生は私たちの誇りです。

先生の性格を一言で言うと？
また、座右の銘は？

性格は人なつこいです。そして、よく喋ります。話すときの発声は良いので多少うるさいと感じている人がいるかもしれませんね（笑）。

座右の銘は、スティーブ・ジョブズの“Follow your Heart”を挙げたいと思います。これまでの私の人生を振り返ると音楽療法に出会うまでも出合ってから流れに乗ってここまでこられましたし、運にも恵まれました。これからは自分の心に従って、心から望むもの一つひとつ選択して人生を創っていきたく思います。

学生時代はどのような学生でしたか？

ストレートに入学してきた学生よりも5歳年上で、ちょっとだけお姉さんで

た。皆とピアノ試験に緊張し、副科で初めて手にしたヴァイオリンでオーケストラのメンバーに入れてもらい、ベートーヴェンの運命を演奏したり、合唱団で第九を歌ったりしたことは良い思い出です。

先生の趣味や休日の過ごし方を教えてください。

気の合う仲間と美味しい食事と会話をすることです。

それから音楽療法コースの躍動感あふれる日々の活動を伝えるべく、学生と一緒にInstagramや動画の編集に力を入れています。皆さま、ぜひご覧ください！

シェナンドー大学音楽院に留学されて一番大きかったことは何ですか？
また音楽療法の今後の発展や可能性についてどのようにお考えですか？

私は教員になってから2度留学する機会を得ましたが、どちらも出される課題の量が多かったです。また、クラスメイトには現役生から主婦、高齢の牧師さんまでおり、何かを学ぶのに遅いということはないのだと気づきました。

昨年4月には、渡米してシェナンドー大学音楽療法プログラム創設50周年のシンポジウムに参加してきました。そこでジョンズ・ホプキンス大学の「音楽と医療センター」で音楽療法士として働く卒業生2名の話聞く機会がありました。彼女たちの仕事は、ICUで脳卒中などの手術を受けた患者の回復を早めるために、モニターを見ながら音楽を使って脈拍や呼吸、血圧・酸素飽和度などのバイタルサインの安定をはかることでした。音楽療法先進国アメリカは、もうここまで来ているんですね。

現代の脳神経学では、音楽は認知や言語、運動機能と神経回路を共有しており、教育やリハビリに活用できることが分かっています。本学では、高齢者のフレ



写真2



写真3



写真4

イル予防を目的とした音楽活動や保育科主催の子育て支援イベントといった「支援」（写真2）から、ADHDの子どもが学校生活を送るための社会性の向上、高齢者のうつ病改善などの「療法」（写真3）まで、さまざまな実践を行って効果を上げています。日本においても音楽療法が支援や治療の選択肢のひとつとなり、だれもが恩恵を受けることができるような社会になればと願っています。医療従事者やご家族を対象とした講演会を開催することもあります（写真4）。音楽学部として初めて音楽療法コースを創設した大学としての責任を感じながら、これからも音楽療法士を養成していきたいと考えています。

音楽療法コースをめざしている皆さんへメッセージをお願いします。

音楽が好きで少しでも音楽ができる、そして音楽には何か力があるのではないかと感じる—そのことを大事にしてほしいです。コースで勉強をすると早い段階で、音楽で人と人がつながる楽しさ、温かさを感じ、そしてその音楽を目的をもって使ったときに療法的な意味が生まれることを知ると思います。実習では、自分の音楽で人がよい方向に変わると、そんな瞬間を目の当たりにすることもあります。学生に音楽療法の魅力を尋ねたら、そんなコメントがよく返ってきますね。もし音楽療法に魅力を感じるけれど音楽はしたことがない、という人でも、その人に合わせた個人レッスンがあるので大丈夫。今の音楽への気持ちを大切に本学で音楽療法を勉強してみませんか？

YUKITO MAEDA

前田 幸人 先生



保健福祉学部 診療放射線学科

担当授業：核医学検査技術学Ⅰ（総論）、核医学検査技術学Ⅱ（各論）
核医学技術学演習、核医学機器学

学歴：北里大学医療衛生学部医療工学科診療放射線学科卒、香川大学大学院医学系研究科社会環境病態医学専攻卒業（博士（医学））

趣味：サッカー、ランニング



死についていくことから始まり、得た知識から医師の研究とは違う放射線技術についての研究に携わってきたことから、自ら核医学分野の研究を行えるようになりました。したがって、めざしたわけではなく、自分に与えられた業務、目の前にあった業務を自分なりに必死にやっていたらいつの間にかこの分野に進んでいた感じです。一つだけ意識したこと述べて、我々が作成する検査画像はさまざまなパラメータにより、全く異なった画像が出る可能性があります。つまり私たちの作成する画像により診断や研究の精度が変わってしまう可能性があるということです。そのようなことが起こらないように、こういったパラメータで画像を作成するのが良いのかなどを中心に、診療放射線技師だからできる研究、診療放射線技師でしかできない研究ということ意識して行ってきました。検査画像は直接診断に使用されるため、限りなく診療（医療の現場）に近い研究といえます。研究において医師は歴史もあり、その手法などが確立していたと思います。しかしながら診療放射線技師の学術・研究面はまだまだがんばる必要があると感じ、その点を意識して診療と研究を行ってきました。



先生の専門分野と今の分野をめざそうと思った理由、きっかけを教えてください。

1999年に香川医科大学医学部附属病院（現 香川大学医学部附属病院）に採用され、26年間診療放射線技師として医療の現場に勤務してきました。診療放射線技師の業務は多岐に渡り、いわゆるレントゲン写真と言われているX線写真の撮影、X線CT装置、MRI装置などを使用して、患者さんの画像を撮影しま

す。また画像解析や3D画像を作成し、その画像を用いて医師は診断をします。多くの検査の中で、核医学検査という診療用の放射性同位元素を使用し検査、または治療を行う分野があり、私は診療放射線技師のキャリアの半分以上、核医学検査を担当してきました。その中で、日常診療のみでなく大学病院というところから多くの研究に携わってきました。大学病院ですので研究のスペシャリストである医師がおり、その医師の先生方にか

教員になって良かったこと、大変だったことは何ですか？

大学病院という医療の現場で26年間勤め、核医学という分野でシンチレーションカメラ（SPECT装置）、PET装置を長く使用してきました。もちろん原理などを学んではきましたが、日々の業務に追われ、必要な基礎知識というところをおろそかにしていたことも事実かと思えます。しかしながら、教壇に立つとなると嘘を教えることはできませんし、知識が浅いと学生の質問にも答えることができません。そのため、教科書をこれまで以上にしっかりと読み、改めて現場での経験とマッチングさせ、学生の質問にもできるだけ分かりやすく回答することに努めました。それにより私自身も成長できたことが教員になって良かった点の一つです。臨床現場で働きながら、自分に足りないものの一つを埋めることができたと思っています。一年目ということもあり、毎週行う講義資料の作成は大変でした。また、どのような講義を行うことが学生にとって良いのか、考えることも大変でした。この点は今後教員を辞めるまで考えることだとは思いますが。

先生の性格を一言で言うと？ また、座右の銘は？

一言で言うのは難しいですが、「明るい」が一番でしょうか。人によっては私のことを「パリピ」とか「陽キャ」とか言う人もいます（笑）。個人的には「優しい」とも思っているのですが、優しいを自分で言う人って問題がありそうと思われませんか（笑）。

座右の銘というとなんかこうすごい考えのような感じですが、私が大切にしているのは「楽しく学ぶ」と言うことです。同じことをするのであれば、苦しいと思うよりは楽しいと思ってやってほしいと思っています。勉強って苦しみながら行っている人が多いかなと思っています。テストなどの評価があるので仕方ないことかもしれませんが、本来、何かを学ぶということは新しい知識を得ることができるという素晴らしいことです。その点を忘れず、同じことをするのであれば苦しみながらするよりも楽しい方が

いいと思っています。私は楽しく学べるような環境を作りたいと思っています。

学生時代はどのような学生でしたか？ また、どのように過ごしていましたか？

私は山口県出身ですが、神奈川県相模原市にある北里大学で放射線技術を学びました。相模原市で一人暮らしをして大学に通っていました。勉強をしないと行けないので、バイトなどは長期ではなく短期でした。成績ですが自分で言うのもあれですが、比較的良好であったと思います。性格について基本的にはあまり変わっていないと思いますが、今よりも尖っていたような気がします。学生時代などはまだ自分の限界なども知らなかったため、なんでもできるような気がしていました。振り返ると自分の考えが正しいと思っていた生意気な人間であったと思います。この歳になり、いろんな経験をすると自分より凄い人は身近にたくさんいることを知りますし、自分も持っていない人の素晴らしい点なども分かってきます。そういったことが分からない子どもであったと思います。今は少し謙虚になったと思いますがどうでしょう。

学生時代の過ごし方ですが、基本的には毎日学校に行っていました。通学はリードという原付に乗っていました。講義を休んだこともあまりありませんでした。ただ勉強をそんなにがんばったという記憶はありません。3年生の前期までは部活でサッカーをしていましたし、掛け持ちの社会人のサッカーチームは卒業するまで参加していました。同じ診療放射線学科の友だち、サッカーを通じた友だちに恵まれたと思っています。

話は変わりますが、趣味や休日の過ごし方を教えてください。

サッカーは今でもやっていますし、ランニングなどもしています。家が志度ですので、志度の町を走っています。休日はサッカーの試合やランニングをします。



ジムに行くこともありますが、最近は「かがわマラソン2026」に備えたランニングが主になっています。学会関係の仕事も土日に結構あります。本当に予定がなければ、ランニングを済ませた後、妻と食料品の買い物に行きます。

ご家庭では、どんなパパでいらっしゃいますか？

前田家では「パパ」と呼ばれず「父ちゃん」と呼ばれています。子どもが小さい時には「父ちゃん、父ちゃん」と言ってくれていましたが、現在は、長男は大学1年生、長女は高校1年生になり、あまり必要とされることはありませんが、学校のイベントや遊びの送り迎えは積極的にするようにしています。もちろん妻の飲み会の送り迎えもします。ご飯もたまに作ったり、ゴミ出しもしますし、食器洗い乾燥機も使います。こんな感じです。



お子さんに言われて一番嬉しかった一言は何ですか？

これというのは記憶にないですが、散髪したあと（坊主の状態）にサッカーをして日に焼けて顔が赤くなっている時の晩御飯のやり取りの中で、息子に「男梅みたいな顔しやがって」と言われたことは嬉しかったと言いか、すごいセンスのあることを言うんだなと関心したことは覚えています。

診療放射線学科をめざしている皆さんへメッセージをお願いします。

診療放射線技師は人の命に関わる大切な仕事ができる職業だと思います。医療に興味があるのであればぜひ進路の一つとして検討してみてください。ご縁があって徳島文理大学に来られることがありましたら、私の経験の全てをお伝えしたいと思います。私の講義、楽しみにしておいてください。

研究紹介

第18回「特色ある教育・研究」全学発表会

「特色ある教育・研究」事業は、若手教職員の育成、外部資金の獲得支援ならびに業務基盤の強化を目的に、学内の教職員から広く募集を行い、本学における教育・研究の質向上ならびに、地方大学として地域活性化、地域貢献に資する事業を支援するものです。採択された前年度終了研究者は研究成果を口頭発表し、その内容を『研究紀要』にも掲載しています。



● 第18回「特色ある教育・研究」全学発表会での2024年度終了研究者の研究テーマは以下のとおりです。

2024年度終了研究者の研究テーマ	研究者
糞便微生物移植療法から見出した腸内放線菌の分離とその有用な生理活性物質の探索	阪口 義彦 (薬学部)
バクテリオールの宿主ミトコンドリア因子を介した作用メカニズムの解明と抗新型コロナウイルス活性に関する研究	庄司 正樹 (薬学部)
既存の抗菌薬を新型コロナウイルスに対する治療薬として適用するための基盤研究	畠山 大 (薬学部)
二酸化炭素除去装置の開発を志向したコケによる流動空気中の二酸化炭素吸収量の測定	江角 朋之 (香川薬学部)
結晶スポンジ法の学内技術移転による天然物同定	小原 一郎 (香川薬学部)
1歳6か月児健診から3歳児健診までの継続的歯科保健指導を可能にするICTを活用した指導プログラムと教材の開発 一多職種からのアプローチ	坂本 治美 (保健福祉学部)
麻痺側・非麻痺側下肢に異なる周波数の振動刺激を行うことで片麻痺患者の起立を可能にする	長田 悠路 (保健福祉学部)
VR体験による高校生の進路選択支援と全国に先駆けた実践教育DXの推進	中島健太郎 (香川薬学部)
高齢者の地域との関わりが身体・社会的フレイルと栄養状態に及ぼす影響	山下 司 (保健福祉学部)
光合成遺伝子発現光がもたらす植物の生育変化機構の解明	前田 淳史 (理工学部)

● 発表会参加者による投票で、2024年度終了研究者より下記の研究が選ばれ、発表会当日および合同教授会で表彰されました。

優秀研究賞の研究テーマ	研究者
糞便微生物移植療法から見出した腸内放線菌の分離とその有用な生理活性物質の探索	阪口 義彦 (薬学部)
光合成遺伝子発現光がもたらす植物の生育変化機構の解明	前田 淳史 (理工学部)



卒業生と大学をつなぐ
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部同窓会

アカンサス会だより

次の十年、次世代へ

アカンサス会会長 田村 祥祐



昨年秋に開催された130周年のホームカミングでは、徳島・香川両県合わせて1,000人を超える多くの会員の皆さまにご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。ひとえに会員の皆さまのご協力と、学園関係の皆さまのご尽力の賜物と感謝いたします。誠にありがとうございました。

私も両会場に参加させていただき、両キャンパスの雰囲気の違いなどを感じながら、また後輩たちのパフォーマンス等を堪能しつつ、非常に楽しく過ごさせていただきました。半世紀近く前に本学を卒業と冒頭のあいさつでも述べさせていただきましたが、同級生との再会は瞬時にその時の長さを解消してしまいます。当時と同じように会話が自然に始まる感覚が心地良かったです。また、同学部卒業というだけで初対面の方たちとも話が盛り上がり、恩師との再会もある本当に幸せなひと時でした。

今、世界情勢は決して良い方向を向いているとは言えませんが、私の学生時代は平和を満喫させていただきました。当時学内で実施された米国短期留学も体験させていただき、現場で同室だった同窓生たちとはその兄弟まで含め親交を続けています。人の縁の不思議・醍醐味を感じている次第です。

次の十年、私は確実に現職を退きますが、縁は大切にしたいと考えております。本学も次の一步を踏み出しました。若い力強い次世代が活躍されています。僭越ながら次の十年を期待させる方々ばかりです。10年後、皆さまにお会いできる日を楽しみにさせていただきます。少し気は早いけれど、140周年ホームカミング会場でお会いしましょう。

役員会

2025年アカンサス会本部役員会において、下記のとおり承認されました。役員は次のとおりです(敬称略)。

- 【会長】** 田村 祥祐
- 【副会長】** 石川 慎也・堤 美代子・平 哲也・藤井 直樹・松下 純子・犬伏 知子・岡山 千賀子
- 【理事】** 大久保 純子・清久 加代子・石川 弥加・河野 美代・遠藤 真由美・福田 恵・小川 直子・松浦 紀子・野田 由美子・小川 嘉弘・長江 優太・大城 泰博
- 【幹事】** 市原 暁子・宗野 真和・上岡 愛・川田 真理・河野 真由美・三宅 幸・森本 滋郎・安藝 誠二・元木 努・紫藤 容子・廣瀬 勝盛・藤巻 晃・板東 博士・福原 泰子
- 【顧問】** 梶山 博司・村崎 文彦・藤田 義彦・高橋 倫子
- 【参与】** 佐々木 尊・佐々木 和昭
- 【監事】** 早雲 洋一・長尾 久美子
- 【徳島県支部長】** 河野 司 《同副支部長・幹事》井村 幸子
- 【香川県支部長】** 今村 幸太郎 《同事務担当》三好 真干
- 【沖縄県支部長】** 小池 伸彦 《同事務担当・幹事》佐賀 啓子
- 【高知県支部長】** 須内 康雄 《同事務担当》長濱 太造
- 【愛媛県支部長】** 村上 美和子 《同事務担当》板東 秀子
- 【アカンサス会事務局・理事】** 入野 恵子

1967年に設立されたアカンサス会は、徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部卒業の同窓生で構成され、会員相互の親睦をはかるとともに卒業生と母校との連絡を密にし、母校の発展を期することを目的とした同窓会の名称です。本会ではこの目的を達成するために、親睦会・講演会・講習会の開催などの事業を行っています。また、2009年に徳島県支部・香川県支部、2011年に沖縄県支部、2017年に高知県支部、2018年には愛媛県支部が発足しました。各支部とも各県出身者を中心にそれぞれ活動を行っています。

さらに、毎年アカンサス会会員の皆さまに『徳島文理大学通信アカンサス』をお送りし、現在の大学の状況をお知らせしています。また、今後のアカンサス会活動につきまして、皆さまのご意見をお待ち申し上げております。

アカンサス会事務局

〒770-8514 徳島市山城町西浜傍180
徳島キャンパス アカンサス会事務局
TEL・FAX: 088-602-8726 (直)
平日 [月~木] 10:00~14:30 [金] 10:00~14:00
E-mail: acanthus@tks.bunri-u.ac.jp
※氏名・住所など変更の場合は必ずご連絡ください。



アカンサス会支部からのお知らせ

徳島県支部

徳島県支部長：河野 司

平素は徳島県支部の活動にご支援・ご理解をいただき、ありがとうございます。2025年度支部総会および研修会は、5月31日(日)「音楽とともに徳島の食を知る・楽しむ・味わう」、また支部イベントとして、8月1日(金)小中学生対象の「夏休みの宿題(絵画)を楽しみながら描こう」と、11月15日(日)「マシントレーニングで楽しく筋力アップ」を盛況のうちに開催できました。2026年度につきましても同様の企画を計画中です。アカンサス会 HP にてご案内させていただきます。10月には130周年記念のホームカミングが開催され、多くの卒業生の皆さまにご参加をいただきました。たくさんの思い出話に花が咲いたのではないのでしょうか。これを機会に、各支部のイベントにもお誘い合わせのうえご参加をお待ちしております。



香川県支部

香川県支部長：今村 幸太郎

平素は香川県支部の活動に多大なるご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。2025年の活動は、昨年に続き大学祭での模擬店を出店させていただきました。もう一つのビッグイベントである日帰り親睦会旅行は、残念ながら新キャンパス移転と重なり、卒業生と在学生との日程が合わず、今回は中止とさせていただきます。しかしながら、ホームカミングが開催されたお陰で、本当に多くの卒業生たちと再会でき、いろいろお話しできたのが何よりも嬉しかったです。キャンパスは変われど、思い出はそのまま受け継がれたということでしょうか？さて、2026年は「日帰り親睦会旅行」「文理祭に卒業生の模擬店出店」を昨年以上に内容を練って必ず実行したいと思います。引き続き、何卒よろしく願い申し上げます。



沖縄県支部

沖縄県支部長：小池 伸彦

平素はアカンサス会沖縄県支部の活動にご理解・ご支援をいただき、ありがとうございます。ここ数年、支部総会は役員が多忙などの理由から開催を見送らせていただいております。皆さまとお会いできる機会がもてないまま時が過ぎましたことを心苦しく感じております。この場をお借りいたしまして深くお詫び申し上げます。2026年度の支部総会につきましては進捗があり次第、アカンサス会 HP のほか、沖縄タイムスや琉球新報など県内紙でご案内させていただく予定です。その際には沖縄県支部の会員の皆さま、多くのご参加をよろしく願い申し上げます。また、沖縄県支部をお手伝いいただける方も募っておりますので、ぜひご検討いただけますと幸いです。

高知県支部

高知県支部長：須内 康雄

平素より高知県支部の活動にご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年度、当支部では母校創立130周年という記念すべき年に合わせ、9月7日(日)に活動再開後初となる対面での支部総会および文化講演会を実施いたしました。高知市の三翠園に、講師として徳島文理大学文学部長・古田昇先生をお迎えしました。「土佐の環境歴史学～プラタモリと新旧地図から読み解く～」と題したご講演は大変興味深く好評でした。続く懇談会も会員相互の絆が深まる盛会となりました。2026年度も母校の発展と在学生支援、そして会員皆さまの親睦を第一に考えて前向きに活動してまいります。今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

愛媛県支部

愛媛県支部長：村上 美和子

平素より愛媛県支部の活動にご支援・ご協力をいただき、ありがとうございます。愛媛県支部では、毎年恒例の会報2025を発行しました。また9月27日(日)に総会を開催し、徳島文理大学大学院人間生活学研究科を修了し、公認心理師として活躍されている栗田 麗氏に講演をしていただきました。その後、懇親会を行い、たくさんの方に参加していただき感謝しています。2026年度も開催予定です。詳細は愛媛県支部会報とアカンサス会 HP にてご案内させていただきます。いろいろな学部や幅広い年代の人たちと知り合える楽しい場にしていきたいと思っておりますので、たくさんの方のご参加をお待ちしています。また一緒に活動していただける方を募集しておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

アカンサス会 支援金をいただいた方の氏名一覧

アカンサス会員(敬称略)

あ 東江 琴美	小笠原 章	出口 博照	廣瀬 和美	牧 千賀子
小豆澤智美	か 加賀山美智子	出口 裕子	廣瀬 勝盛	松岡 秀己
東 邦彦	き 城戸 麻里	と 徳永富士夫	廣瀬 孝子	松下 純子
阿部奈緒美	さ 佐光 由子	豊田 英睦	廣瀬 梨生	松田 史織
い 池田 浩	澤田 正代	な 永井 久恵	廣瀬 芽生	み 道上 紀子
石崎 翔大	す 鈴木小百合	中根 徳人	兵頭 寿啓	む 村尾 拓郎
市原 暁子	そ 祖川 絵美	中野 優	ふ 福田 一幸	も 森 敏子
犬伏 知子	た 平 哲也	中村 佳子	福原 榮子	森 正彦
井村 幸子	竹崎美由紀	中山 育子	福原 延隆	や 安田 仁
入野 恵子	多田 一子	に 西 和代	福原 泰子	よ 横山 三千
岩佐 勝江	田中 睦美	西林 伸幸	藤巻 晃	吉岡 達哉
岩本 泰子	田村 祥佑	丹生 光子	藤巻 純子	米田 昇平
う 上岡 愛	つ 辻 厚巳	の 野尻 幸江	ま 前田 佳子	
植田つきみ	堤 美代子	は 橋本 容子		
え 榎内 光子	て 手塚 恭子	ひ 東矢 剛		
お 大内 幸子	寺田 市代	平尾 真人		

アカンサス会員……………73名
特別会員等……………21名
合計……………94名

匿名……………3名

5万～9万……………2名
1万～4万……………95名
合計……………97名

(2026年2月現在)

※卒業生でない本学の教職員で、同窓会に入会していただいた方や奨学金の趣旨に賛同し、支援金を寄付していただいた方。

特別会員等*(敬称略)

い 犬伏 茂則	し 白石 勝美	に 二宮 昌樹
井上 和也	せ 妹尾尚一郎	ひ 平賀 幸夫
う 内原 勇	た 竹下 文人	ふ 藤代 民子
か 亀井きみ江	武田 紘一	ま 松田 和典
川端 恵子	つ 津田 とみ	松原 伸夫
き 木村 昌雄	な 長井 定明	松本 真樹
く 熊野 直樹	那住 公子	も 森田 孝夫

2026
年度

各県支部総会・交流イベントのご案内

アカンサス会には、徳島県支部・香川県支部・沖縄県支部・高知県支部・愛媛県支部があります。

2026年度の各県支部の総会および交流イベントの開催については、詳細を大学のHPに掲載します。右の二次元コードよりご覧いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ先

徳島県支部
沖縄県支部
高知県支部

〒770-8514 徳島市山城町西浜浜示180 徳島キャンパス アカンサス会事務局
E-mail: acanthus@tks.bunri-u.ac.jp
TEL・FAX: 088-602-8726 (直)
【平日】月～木曜日 10:00～14:30 / 金曜日 10:00～14:00

香川県支部
愛媛県支部

〒760-8542 香川県高松市浜ノ町8-53 高松駅キャンパス
E-mail: acanthus@kgw.bunri-u.ac.jp
TEL: 香川県支部 087-899-7403 (就職支援部 近藤)
愛媛県支部 087-899-7454 (教務部 板東)

●詳しくはアカンサス会のホームページをご覧ください。

<https://www.bunri-u.ac.jp/acanthus/>



開催

2026年度 教育懇談会(保護者会支部会)を開催 ～大学と保護者の皆さまを結ぶ架け橋～

教育懇談会(保護者会支部会)では、在学生の保護者の皆さまに大学の現状や取り組みについてお伝えするとともに、お子さまの修学や学生生活、就職・進路等皆さまが抱える大学生活全般に関する不安・心配事の解消を目的とした教職員による個別面談や全体説明会を実施しています。会場へは本学の教員だけでなく、お子さまの担任やチューターが赴き、直接お一人おひとりへ学業成績や科目履修状況・出席状況等をお伝えし、学生生活全般についての相談をお受けします。加えて、今後の進路や就職等については、就職支援部の教職員と個別相談をすることもできます。2026年度は、8月22日(土)の徳島会場を皮切りに、全国15会場での開催を予定しています。詳細につきましては7月ごろ、各ご家庭へ案内状をお送りします。教育懇談会(保護者会支部会)は、大学と家庭を結ぶ架け橋として、また会員相互のコミュニティの場としてさらなる充実・発展を図っていきたくと考えています。ぜひお近くの会場へ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



保護者会 HP



支部会総会(徳島)



個別相談(高知)



個別相談(心理学科)



就職相談



個別相談(臨床工学科)



個別相談(高知支部)

2026年度 教育懇談会支部会 日程		
支部	開催日時・会場	
徳島	8月22日(土) 13:00～	徳島文理大学 徳島キャンパス
鳥取・島根	8月22日(土) 13:00～	松江エクセルホテル東急
岡山	8月22日(土) 13:00～	ピュアリティまきび
北九州	8月29日(土) 13:00～	福岡ガーデンパレス
南九州	8月29日(土) 12:30～	ダイワロイネットホテル鹿児島天文館
兵庫	8月29日(土) 13:00～	神戸三宮東急 REI ホテル
沖縄(那覇)	8月29日(土) 13:00～	パシフィックホテル沖縄
沖縄(名護)	8月30日(日) 13:00～	オキナワグランメールリゾート
東海	8月30日(日) 13:00～	名古屋ガーデンパレス
高知	8月30日(日) 13:00～	三翠園
和歌山	8月30日(日) 13:00～	和歌山県 JA ビル
香川	9月5日(土) 13:00～	徳島文理大学 高松駅キャンパス
大阪	9月6日(日) 13:00～	大阪ガーデンパレス
愛媛	9月6日(日) 13:00～	愛媛県民文化会館
広島	9月13日(日) 13:00～	広島ガーデンパレス

2025年度 退職者一覧

▶大学

- 竹本 恵一 (一般総合 自然 教授・高松駅C 教務部長)
- 矢野 正裕 (一般総合 自然 准教授・入試広報部 副部長)
- 中川 利津代 (人間生活学部食物栄養学科 教授)
- 篠原 靖典 (人間生活学部メディアデザイン学科長、メディアデザイン学科 教授)
- 古本 奈奈代 (人間生活学部メディアデザイン学科 教授)
- 高橋 昌江 (人間生活学部人間生活学科 教授)
- 吉岡 利菜 (人間生活学部心理学科 助手)
- 谷脇 澄男 (音楽学部音楽学科 准教授・入試広報部 副部長)
- 瀬津 弘順 (薬学部薬学科 教授・国際部)

- 鈴江 朋子 (薬学部薬学科 教授)
- 雑賀 憲彦 (総合政策学部経営学科 教授)
- 藤村 和宏 (総合政策学部経営学科長、経営学科 教授)
- 冨田 勝義 (保健福祉学部長、診療放射線学科 教授)
- 後藤 浩代 (保健福祉学部人間福祉学科 准教授・徳島C 教務部 副部長 兼 教育研究支援課長)
- 西川 啓介 (保健福祉学部口腔保健学科 教授)
- 鎌田 加容子 (保健福祉学部看護学科 講師)
- 廣瀬 良平 (保健福祉学部理学療法学科 講師)
- 野崎 泰博 (文学部英語英米文化学科 教授・高松駅C 学生部長)
- 大久保 徹也 (文学部文化財学科 教授)

- 樋口 峰夫 (理工学部機械創造工学科 教授)
- 加藤 善久 (香川薬学部薬学科 教授)
- ▶短期大学部
- 熊谷 公博 (音楽科 教授)
- 松下 純子 (生活科 教授)
- ▶事務職員
- 岩本 泰子 (徳島C 教務部教務課 事務職員)
- 藤本 浩美 (徳島C 教務部教育研究支援課 事務職員)
- ▶年度途中退職者
- 淵 靖史 (薬学部薬学科 講師) (2025.9.30 付)
- 林 薫 (総合政策学部経営学科 講師) (2026.2.5 付)

村崎学園紹介

学校法人村崎学園は、1895(明治28)年、創立者村崎サイの「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念のもと設立されました。その信念は建学精神「自立協同」としてその後の学園経営の基礎となり、ゆるぎない教育の目標として一貫して受け継がれてきています。学園創立50周年にあたる1945(昭和20)年には、戦火によって総てを失い創立者もまた校舎と運命を共にいたしました。戦野から帰還した第二代理事長村崎凡人は、サイの意志を承け、学園の復興に精魂を傾け、幼稚園から大学院までを完成

し、総合学園として、独立心と国際性豊かな人材の育成に励みました。その後、村崎正人前理事長は、社会の変化を踏まえた教育の充実を図り、大学において、徳島キャンパスに総合政策学部、香川キャンパスに理工学部・香川薬学部・両キャンパスにまたがる保健福祉学部を設置し、現在では大学・短期大学部合わせて9学部28学科、6大学院、3専攻科、そして5研究所、1相談室を有する文理融合の総合大学へと発展させました。幼稚園・小学校・中学校・高等学校を擁した学

学園本部お問い合わせ
〒770-8560 徳島県徳島市寺島本町東1-8
TEL: 088-622-0097

園においては、幼稚園から大学院までの一貫教育体制が確立している中で幅広く教育の場を提供しています。優れた教職員と最新鋭の施設・設備の整った「安心」「安全」な教育環境のもと、成長を継続して支援することにより、社会の多様な要請に応える人材育成に力を注いでいます。学園は建学精神を体し、それぞれの学校が自立して相互に連携している共同体です。先人の残した精神・教育・伝統のもと、今後とも幼稚園から大学院までの各校が協同し、私学教育発展のためさらなる進歩を続けてまいります。



■徳島文理大学附属幼稚園 URL: <https://bunri-u-k.jp/>

本幼稚園は、学園の建学精神である「自立協同」を基本的理念とし、具体的なものとして「健康・知性・徳性」の3つの基本的教育方針を掲げています。それに沿って子どもたちを育成し、徳島文理小学校・中学校・高等学校への教育につなげています。また、子どもたちが良い環境下で多くのことを経験すれば、子どもたちの能力は驚くほど伸びるものと考え、本園では望ましい環境づくりに全力を尽くしています。大学附属幼稚園としての利点を十分にいかし、充実した施設・設備と優秀な教員がそろった総合大学の協力体制のもと、質の高い保育をめざしています。さらに、保護者の方とのコミュニケーションを大切にし、満3歳児保育や預かり保育など子育て支援にも力を注ぎ、幼児が家庭から離れて社会生活を開始する第一歩を、安全で安心して踏み出せるようサポートしています。2025(令和7)年度より給食もスタートしました。今後とも学園の一貫教育の一翼を担う幼稚園としての責任を果たさたく思っています。

〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示2 TEL: 088-653-4941



■徳島文理小学校 URL: <http://bunri-e.ed.jp/>

本小学校では、建学精神「自立協同」をもとに、校訓を「正しく 強く 美しく」と定め、知・情・意・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成をめざしています。児童にとって、安全で学びやすく整備された施設・設備の中で、6年間で公立学校の7年間分の授業時数を確保し、本小学校独自のカリキュラムを編成して教育内容を充実しています。具体的には、低・中・高学年別の3つの図書室と学級文庫を利用した読書指導に力を入れ、毎日の日記指導などとも合わせた言語能力の育成をしています。また、最新のタブレット等を導入した情報活用能力の育成にも力を入れています。そして、英語は開校以来、全学年で週2時間を教科として特設し、段階的・発展的に授業を展開しています。高学年では、そのうち1時間をネイティブスピーカーが指導し、将来使える英語の基礎を培っています。さらには、全校茶会や一味会(音楽・英語劇)、古典音読、百人一首、四字熟語・ことわざかるた等々に取り組み、日本の伝統文化にも慣れ親しんでいます。情操面においても、人を思いやる心・あいさつやマナー・感謝の心等を育てることに取り組んでいます。

〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示 68-10 TEL: 088-652-5567



■徳島文理中学校・高等学校 URL: <http://bunri.ed.jp/>

最新の耐震基準に基づく安心・安全な校舎、充実した施設設備と本格的な日本庭園、広々とした食堂と運動場など、私学ならではの理想的な教育環境を提供しています。中高一貫教育の継続的、系統的な指導と先取り学習によって生じるゆとりのなかで、東大16人(理Ⅲ7人)、国公立大医学科160人、私立大医学科136人、早稲田大116人、徳島文理大158人(過去10年間)に代表される顕著な合格実績を挙げています。多くの生徒が、授業はもとより早朝や放課後も意欲的に学習しています。文化祭・体育祭・海洋研修・広島研修・オーストラリア語学研修・スキー研修・東京研修など、多彩な学校行事を実施しています。多くの生徒が勉強と両立しながらさまざまな部活動を楽しんでいます。活躍する部活動を応援し、楽しい部活動も奨励しています。「自立協同」の建学精神のもと、品位と知性を行動規範として、多くの児童・生徒が憧れる魅力ある学校づくりに努めています。私立高校授業料無償化を追い風として、難関大学・学部進学をめざす私立進学校として、さらに飛躍したいと願っています。

〒770-8054 徳島県徳島市山城西4丁目20 TEL: 088-626-1225



徳島文理大学の建学精神

徳島文理大学の建学精神は、「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治28年（1895年）7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20年（1945年）7月、学園は戦火に包まれ灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人第二代理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない。」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、短大、大学、大学院併せて9学部28学科、6研究科、3専攻科、そして、5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

2026 オープンキャンパス日程

徳島キャンパス (10～15時)	4月26日(日)・6月14日(日)・7月12日(日)
	7月25日(土)・8月23日(日)・9月13日(日)
高松駅キャンパス (10～15時)	4月25日(土)・6月20日(土)・7月11日(土)
	8月2日(日)・8月23日(日)・9月12日(土)

大学公式 SNS をフォローしよう！

大学の最新情報を随時更新しています！



X



Instagram



TikTok

徳島キャンパス (徳島県徳島市山城町)

- 大 学 院……薬学研究科(博士課程)／人間生活学研究科(博士課程)／看護学研究科(博士課程)／総合政策学研究科(修士課程)
- 専 攻 科……人間生活学専攻科(児童学専攻・人間生活学専攻)／助産学専攻科／音楽専攻科(器楽専攻・声楽専攻)
- 薬 学 部……薬学科
- 人間生活学部……食物栄養学科／児童学科／心理学科／メディアデザイン学科／建築デザイン学科／人間生活学科
- 保健福祉学部……口腔保健学科／理学療法学科／看護学科／人間福祉学科
- 総合政策学部……総合政策学科
- 音 楽 学 部……音楽学科
- 短期大学部……商科／言語コミュニケーション学科／生活科学科／保育科／音楽科

高松駅キャンパス (香川県高松市浜ノ町)

- 大 学 院……薬学研究科(博士課程)／工学研究科(博士課程)／文学研究科(博士課程)
- 香川薬学部……薬学科
- 保健福祉学部……診療放射線学科／臨床工学科
- 総合政策学部……経営学科
- 理 工 学 部……ナノ物質工学科／ロボット創造工学科／電子情報工学科
- 文 学 部……文化財学科／日本文学科／英語英米文化学科

徳島文理大学ホームページ

<https://www.bunri-u.ac.jp>



校章の由来 …Acanthusとは、アカンサス属の一種、アカンサス・モルリスの葉で、別名ハアザミ。その刺は、事に当たって厳正、的確に処理する優れた知性を、その葉は古代ギリシャの美または芸術に通ずる豊かな情操を具象化し、本学の建学精神である「自立」を具現化した科学と芸術を示すものとして校章に制定されました。



(公式 HP)
QRコード